

研修システムを考える

暮らしの場より気づかされたこと

特別養護老人ホーム「風の村」
秋葉都子

事前アンケート結果 ①

「自施設の入居者をどう思うか？」

「3度の食事を楽しみにしており、
手持ち無沙汰に

椅子に座っている」

平成14年度千葉県施設職員ユニットケア研修より

事前アンケート結果 ②

「自施設の介護をどう思うか？」

「少しの傷もつけることなく
大事に大事に
生かしている」

平成14年度千葉県施設職員ユニットケア研修より

ワーカーが見ている 高齢者施設の入居者像

- 集団生活に身をおき

- 意思や意欲をなくしながら

- 変化のない生活を送っている

平成14年度千葉県施設職員ユニットケア研修より

自分達(ワーカー)がしている 介護は・・・？

- 業務優先
- マニュアルに沿った
- 時計を見ながら
- 入居者の声を聞かぬ振りをして

平成14年度千葉県施設職員ユニットケア研修より

研修の感想

- 寄り添う介護は集団処遇からは見えてこない
- これほどまで入居者と目線を合わせる努力をしたことがなかった
- 痴呆性高齢者は汚い者でも異質の者でもない
- お年寄りから学ぶことが一番
- 意見を言う・ものを考えることに少し前進出来たと思う

平成14年度千葉県施設職員ユニットケア研修より

気づいたこと「ユニットケアとは？」

□ 自分を見つめなおすプロセス

→ 面倒なことをすることは嫌だからお年寄りから目をそむけたりケアを正当化していた自分がいた。ユニットケアから学びえた中で一番大きいものは振り返り、前進しなければ成長できないということ。お年寄りと一緒に何か楽しみを創っていきたいと思う。

平成14年度千葉県施設職員ユニットケア研修より

介護現場でほしがっていること

□ 交通整理

- 組織とはなんぞや？
- 自分の言葉を発すること
- 自分の声を出していくこと
- 自分で考えられることの喜びを味わうこと
- 自分で判断することと責任の関係を知ること



自分で気づきを築くこと

介護現場がしなくてはならないこと

- 受容を考える → どう死にたいか？

- 暮らしを考える → 生活の場である

- 老いること・障害を持つことを伝える
→ 家族・地域

研修について考えること ①

- 3年間整備計画 → 行政指導集中徹底型
 - 国単位の研修 → 痴呆介護 3 センターの活用
理論の構築
県の指導
県の状況把握
 - 県単位 → 県独自の研修センター
介護現場に即した小回り効く研修運営
一貫した介護理念と介護ビジョン
介護現場を知っている専門員
地域にあった研修の組み立て

研修について考えること + α

□ 教育現場とのドッキング

→ 生徒・児童は純粹

老いること・障害を持つことをともに考える機会にする

□ この時期がチャンス
